

令和5年11月28日



一般社団法人 日本スイミングクラブ協会

「プール熱」の呼称使用について

本日、公益財団法人日本水泳連盟会長鈴木大地氏と一般社団法人日本マスターズ水泳協会副会長村山よしみ氏、当協会会長三宅泉の水泳3団体の代表者が厚生労働省を訪問し、厚生労働大臣政務官塩崎彰久氏へ下記の文章を提出致しました。咽頭結膜熱、俗称「プール熱」が誤解や偏見を招く表現であるとして、今後そうした呼称を使用することをお控え頂きたいと要望した次第です。また、今後は「咽頭結膜熱」はもちろん、「アデノウイルス熱（アデノ熱）」といった表現を使用して頂くよう要望致しました。

令和5年11月28日

厚生労働省
大臣 武見 敬三 様

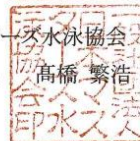
公益財団法人 日本水泳連盟
会長 鈴木 大地



一般社団法人 日本スイミングクラブ協会
会長 三宅 泉



一般社団法人 日本マスターズ水泳協会
会長 高橋 繁浩



「プール熱」の呼称使用に関するお願い

令和5年9月下旬から11月にかけて、「咽頭結膜熱」（俗称「プール熱」）の感染者数が過去10年で最も増加していることがニュース等で大きく取り上げられています。私ども水泳3団体は、かねてより、「咽頭結膜熱」の呼称として「プール熱」という言葉を使用することに対し、あたかもプール等での遊泳時に感染を拡大させる病気であるかのような誤解を招きかねないとの思いから、この呼称を使用することに懸念を抱いていた次第です。

「咽頭結膜熱」は主にアデノウイルス3型による感染症で、夏場に拡大することが多いため、遊泳時との因果関係を想定することは理解できます。確かに屋外プールなどで日射などにより残留塩素濃度が低減すれば、感染が広がる可能性はあります。しかしこれは感染経路の一つにとどまります。「咽頭結膜熱」の感染経路は、通常飛沫感染や手指を介した接触感染、結膜や上気道からの感染であることから、感染の可能性は生活圏全体の中にあるため、このような呼称使用は「咽頭結膜熱」に対する誤解やプールに対する偏見に繋がり、防疫知識取得の観点からも、生活者の健康を害することにも繋がりかねません。図らずも今回、屋外でのプール使用が概ね終了しているこの時期に「咽頭結膜熱」が流行したことはその証左と言えます。また、世界的に見ても「プール熱」なる呼称は見られません。Pharyngeal conjunctival fever (PCF:咽頭結膜熱) や adenovirus infection (アデノウイルス感染症) などが使用されています。

「プール熱」という呼称がマスメディア等で使われるようになった背景には、「咽頭結膜熱」という日本語の発音しづらさ、読みづらさがあると思われます。しかしながら、今後は「咽頭結膜熱」はもちろん、「アデノウイルス感染症」「アデノウイルス熱（アデノ熱）」等の名称を使用し、誤解を招く「プール熱」の呼称のご使用はお控え下さいますよう、お願いを申し上げます。

以上